

大塩の乱後における三井越後屋大坂本店の再建記録

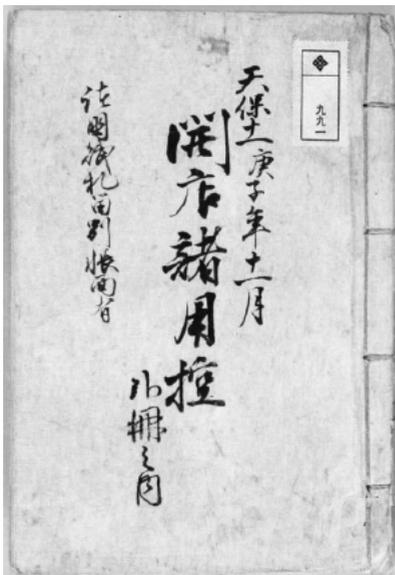
——天保十一年「開店諸用控」——

下向井 紀彦

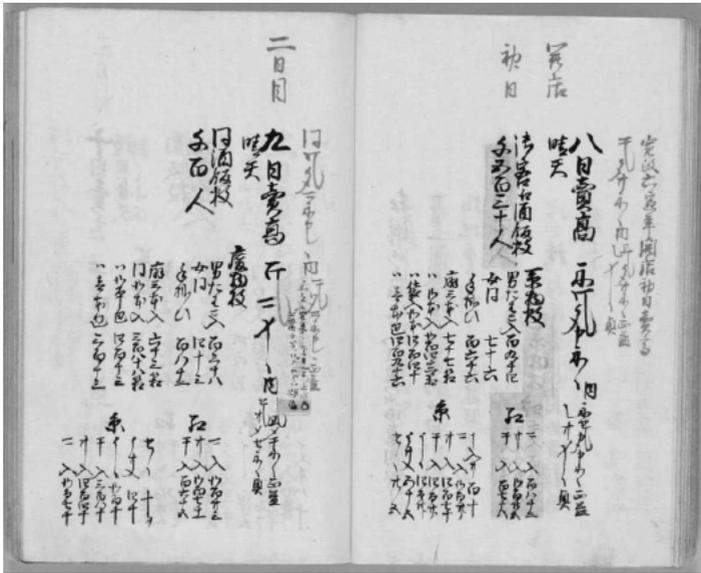
開店諸用控について

本史料は天保十一年（一八四〇）に実施した三井越後屋（以下、越後屋）大坂本店の店開きの記録である（第1図・第2図）。高麗橋一丁目にあった大坂本店は、天保八年（一八三七）二月十九日に生起した大塩平八郎の乱で焼失した。その後仮設店舗での営業を続けつつ、三年かけて本店舗の再建を行い、天保十一年十一月八日に新たな本店舗での営業を開始した。開店当日には大勢の人々が押しかけ、買い物客のうち一五三〇人に酒食を供したという。その店頭の賑々しい様子は錦絵でも描かれている（第3図）。

本史料は開店準備や開店時の様子、開店以降の売上額の推



第1図 開店諸用控（表紙）



第2図 開店諸用控 (内容)



第3図 大坂本店店開きの様子



第4図 店開きの景品（手拭いと扇子）

注）上の手拭いと右の扇子が大坂本店の景品。図案が統一されている。

移など、様々な観点から記録を取ったもので、当時の店の様子や付き合いの範囲など興味深い内容を多く含む。

これまでも本史料はしばしば使用されてきた。特に引き合いに出されるのは、開店にあたり大量に作成・頒布された引札（宣伝広告）の様子や景品の様子である¹⁾。大坂本店の店開きでは七〇万枚余もの紙を用意し、大坂市中に一二万枚余を配布しているのだが、その根拠となるのが本史料の記述である。このときの店開きでは、引札とともに扇子・手拭い・たばこ入・紅粉猪口・糸・絹など大量の景品も用意していた。

このうち扇子と手拭いは現物が残っており、大坂に入津する船の様子を帆と濡標みおつくしを描くことで表現している（第4図）。

本史料は、これまでも部分的に内容を利用してきたものの、その全文は紹介されてこなかったことから、今回改めて翻刻することとした。なお、本史料は一七cm×二四・五cmの堅冊であり、表紙・裏表紙とともに本紙九一丁からなる。また、表紙に「式冊之内」「諸国賦札留別帳面有」とあることから、店開きに関する史料が複数冊あったものと思われる。「大坂本店普請開店一卷控³⁾」という史料が残っているものの、これが対応するものかどうか明らかにできていない。賦札（引札）については現物が複数枚残っている。

（1） 樋口知子「大坂本店引札（天保十一年）」『三井文庫論叢』

第九号、一九七五年)、下向井紀彦「一八世紀における三井越後屋の宣伝広告―引札に関する基礎的研究―」(『三井文庫論叢』第五一号、二〇一七年)。

(2) 「大坂高麗橋三井越後屋呉服店開繁栄図」(三井文庫所蔵参
考図書(錦絵) M二一九―三三五)。なお、松阪市継松寺にも
同じ構図の絵馬が残されている(「口絵 難波津三井店開之
図」『三井文庫論叢』第三号、一九六九年)。

(3) 「大坂本店普請開店一卷控」(三井文庫所蔵史料 本一一七
七―一)。本一一七七にはその他にも関連史料が綴じられて
おり、これらを含めて天保十一年の店開きについては別稿で
改めて検討したい。

凡例

- 一、翻刻に際し、内容に即して適宜通し番号と見出しを付けて、
読者の便宜をはかるようにした。
- 一、字体は原則として通用の字体を用いたが、固有名詞や慣用句
などで原本通りとした場合もある。
- 一、変体仮名は現行の仮名に改めたが、平仮名・片仮名の表記は
原文のままとした。
- 一、読みやすくするため、適宜読点、並列点を加えた。
- 一、版面の都合により、一部の文言について、原本と異なる配置
とした。
- 一、本文中で傍線の附されている箇所には傍線を加えた。
- 一、判読不能の文字は□で記した。また、一部の文字については

原本の文字をそのまま置いた。

一、誤字や必要と思われる箇所には、適宜丸括弧で行間に注記を
入れた。

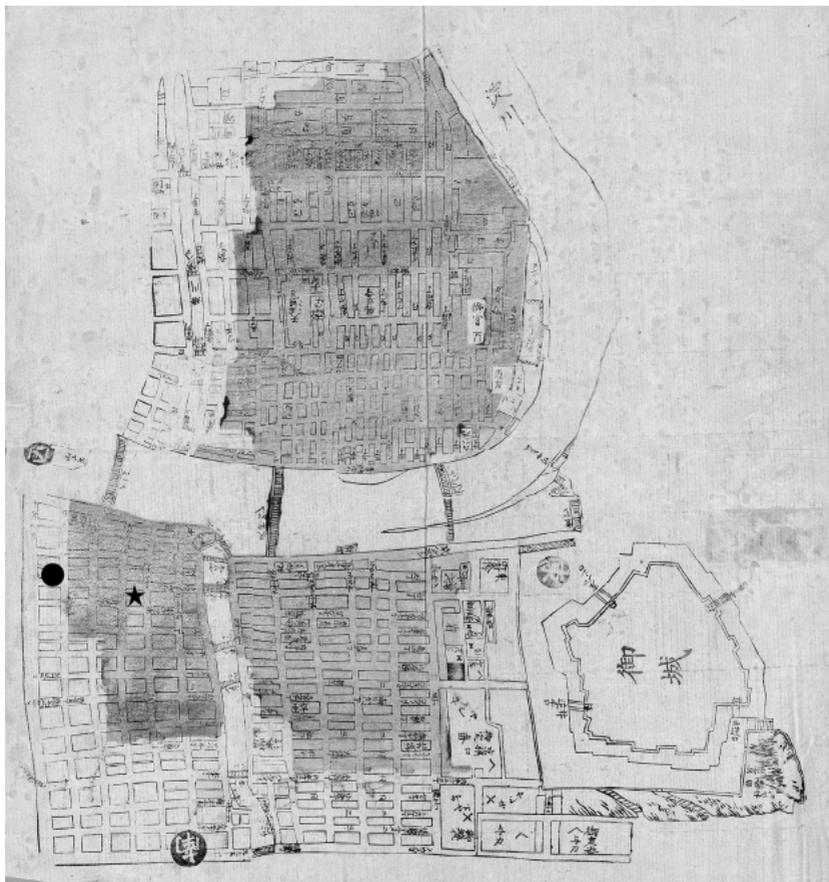
一、本文中の表現は歴史的用語として、史料通りに翻刻した。
一、三井の符帳が用いられている数字については符帳のまま翻刻
し必要と思われる箇所のみ行間に丸括弧で数字を補った。三井
の符帳は数字や単位をカタカナや漢字に置き換えたもので、本
史料で用いられている符帳は以下の通りである。

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 百 貫 匁 分
イ セ マ ツ サ カ エ チ ウ シ 舟 匁 入
曾 野 見 江 佐 留 所 於 戒 敬

その他、本史料では数字の桁を飛ばしている箇所を「○」で
表記しており、本稿でもその通りに表記した。

一、本稿の作業従事者は下向井紀彦・松浦智博である。下向井が
原稿作成・校訂を行い、松浦が校訂を補助した。最終的な責任
は下向井が負う。

大塩の乱後における三井越後屋大坂本店の再建記録（下向井）



参考図 大塩の乱の焼失範囲

出所) 「大坂焼跡図」(三井文庫所蔵史料 本 1281-5).

注) 星印の位置は大坂本店, 丸印の位置は大坂両替店にあたる.

開店諸用控

三井文庫所藏史料 本九九一

(表紙)

「天保十一庚子年十一月

開店諸用控

式冊之内

諸国賦札留別帳面有

1 諸用控

一天保八酉年二月十九日、放火乱防土蔵諸道具共類焼、誠前

代未聞之有様難尽筆紙、委細別録ニ荒増を記ス

一飯家普請早々取掛り、同年三月八日普請就出来、見世開致
ス、扱又焼失土蔵追々ニ新建致ス

一堺筋通東側ニ而屋敷ニケ所買請、新土蔵壹ヶ所相建、鏡店
住ひも少し広く致シ遣、土蔵附ニして其余本店西見勢ニ而
畳敷四十畳斗広く相成候積り

一本普請之儀、京都江御願申上候処、御聞濟被下置候ニ付、
左之通

一天保十亥年八月十七日、就吉辰祈始

一同年十一月廿四日、地虫供養并普請無難成就、且普請

職人怪我等無之ため、普請庭ニおゐて大般若相務、魚
鳥放生致ス

一同十一年三月廿一日、就吉辰表之方凡六步通棟上

一同年七月八日、奥之方致家建凡四步通り就吉辰棟上ケ

一普請追々仕寄候ニ付、十一月開店仕度段京都江相願、賦札
文言相定、主中様方江相窺候処、御聞上之上、判下夕北様

より青連院様御家中江御頼被遊、板木も京都ニ而為御彫被

下、尚又当地ニ而も為彫、都合ニ而当地市中賦之判木四枚、

他国賦判木拾式枚、右ニ而判摺職人式人店表江呼よせ、五

月九日より為摺申候、老人ニ而壹日式千枚宛摺也、右文言

左之通

大坂市中賦之分左之通

乍憚口上

益御機嫌能被為遊御座奉恐悅候、私店年来御鼻厚御用

向被為仰付被下、御蔭を以今般普請出来仕、誠以難有仕

合奉存候、仍之近日見世開仕、諸代呂物弥地性吟味仕、

御礼為冥加直段格別下直奉指上候、不相替幾久御用向被

為仰付被下置候様偏奉願上候、憚多御座候得共、右之趣

御懇意様方江茂宜敷御風聴被遊被下候様奉願上候、以上

子十一月

大坂高麗橋壹町目

八日開店仕候

三井



ゑちこや

〔朱書〕
「此八日開店之文字丈ケは別判ニして賦札配り始、
際ニ至り印肉^カニ而押ス也、五月六月頃ニハ開店日取
難相定メニ付、如斯ニ相成申候」

〔朱書〕
「右賦札之紙、小杉原ニ而者下品ニ而籠抹故、大杉原
を立ちおとし、小杉原之大キサニスル、尤鯨さし丈
ケ八寸三步横卷尺也」

他国賦之分左之通

乍憚口上

益御機嫌能被為遊御座奉恐悅候、私店年来御疊厚御用向
被為仰付被下、御蔭を以今般普請出来、見世開仕、誠に
難有仕合奉存候、依之諸代呂物弥地性吟味仕、御礼為冥
加直段格別下直奉指上候、不相替幾久御用向被為仰付被
下置候様偏奉願上候、憚多御座候得共、右之趣御懇意様
方江茂宜敷御風聴被遊被下候様奉願上候、以上

子十一月

大坂高麗橋卷丁目

三井



ゑちこや

〔朱書〕
「右他国配り之分考、開店仕候儀を御披露申上候賦
札ニ候故、開店之日書なし、勿論見世開き後早々よ
り追々に賦札致ス」

一当地市中賦札之儀、暖簾内衆中江致沙汰候所、相統講筆頭
加藤清右衛門殿頭取被致世話一統江熟談有之候所、多分本
人直々賦札可被致趣、返答有之神妙之事ニ候、則賦札之人
数左之通

加東藤助

田中覚右衛門

村井新十郎

但シ、当人ハ在宿
ニ而賦札之惣人
数何賦之支配し

て店表江連ひマ
付、代賦札周助

小野治右衛門

中西庄右衛門

岩崎与右衛門

甲野平右衛門

小島久兵衛

加東清右衛門

小野十右衛門

金房孫市

千葉卯右衛門

中村孫兵衛

佃伊兵衛

佃弥兵衛

病氣ニ付子息甚之助

堀内清七

中岡与兵衛

市川七三郎

柴田子息辰次郎

辻嘉兵衛

本店筋

中西助四郎

石田十兵衛

角田善太郎(九)

手代佐兵衛

但シ、沓目ニ而跡差支有之

石井与三兵衛

吹田与七

野崎新兵衛

但シ、沓目ニ而跡差支有之

岸本岩太郎

外二

両替店筋

本店立入之米屋

木屋忠右衛門

以前本店表出入当時茶店商売

相かわらず先ツ表出入同様

播磨屋武兵衛

右之通有之、依之何歟之為示合、十月十六日八ツ時より賦札人数店表江寄集、万端致示談、夕飯一汁一菜膳酒差出ス一吉日相撰、十月廿三日より大坂市中賦札相始申候、当年吉方庚之方ニ候故、平野町御壺御宮拜殿江賦札ニ御神楽料金沓朱相添差上、出店預り、野瀬源兵衛、早朝袴羽織帯劔ニ而持参スル、其足にて座摩御宮江も銀沓封相添、同様ニ致ス、帰店引統暖簾内衆中賦札ニ差出ス、尤袴羽織着用、脇

差なし、日々打揃市中端々裏家迄残らす、其外西国筋より之入船両川口迄茶船ニ乗、不残賦札いたし、十一月二日迄二而相片付申候、尤廿九日、卅日節季ゆへ兩日相休、正味日数八日ニ而賦札皆済、但し式人を沓組与して兩側江わかり賦ル也

此札数 拾式万千四百枚余

但シ、大坂三郷町中并右町統之在料端々裏家迄不残并入船之船々不残賦り候高也

一東隣圍店当方同様致類焼候、些訳合等有之候事哉、区々噂有之候得共取留候儀は無之、回家者土蔵沓ヶ所も別条無之、諸道具者勿論、家根看板等迄取退被申、放火私防之折柄には不思議ニ被存候、扱同店儀も子年二月祈始被致候所普請成就、同年十一月四日開店可被致段、彼店より当方江被申参候、尤彼店跡より普請ニ被取掛、開店者前マツ開店ニ相成候ニ付、当方ニ差支等無之哉与被申参候儀ニ候得とも、当方ニ聊差支無之、勿論たとへ差支有之候而も可申立筋には無之故、其趣を以返答いたし遣候、弥十一月四日見世聞き被致候所、存之外不印有之不都合之儀も彼是有之候様相聞え申候、尚又開店初発御入来之御客様江一番二番三番与申候而景物之わかち無之、始終同様ニ而日数十日添物差出被申候、

〔欄外未書〕

〔四方添物前以及承候ニハ最初寺日開店祝儀、跡三日冬物売始、添物都合四日之積り之よしに候処、此方より日数差出候ニ付、夫ニ順し日数十日差出し被申候趣ニ候〕

且又見世開之賦札世間茶店杯之配り方同様ニ而、わらんじ掛ケにて市中之内重たる丁々斗之趣、端々之町内扱又裏家等江者賦り不被申趣ニ有之、依而大坂市中賦札之數凡五万枚斗ニ相聞え申候、当方賦札者彼店之賦札太駄相片付候頃より配り掛申候、扱彼店開店之節、買合ニ遣し候所、差而下直之品も無之、尤紬・嶋余程下直之品有之、追々買取ニ遣し候所、夕方ニ者売切のよし、左候へ者纒之數趣向もの
与被察候、彼店御客膳部左ニ

五錢位之

しりふす

しい竹式枚

青 菜

〆三種ニ而魚類なし

汁 焼豆腐才切
青 菜

平

猪口 水菜
したしもの

焼物 小鯛 但、至而小ぶり

金 四寸より
五寸まで

取看 たこ かまぼこ

紅しゆうが

一就吉辰看板上ケ、十月十五日より取掛り、同廿七日看板之板を目出度上ケル

一就吉辰表板囲ひ、十一月四日取払ひ、のき囲ひニいたし、大道取締ひ致ス

一十月廿六日、神棚御移徙千度抜

住吉 山上縫城太夫様

外三三人

御初穂 金舟疋 縫城様

同式朱宛 跡三人

一同日、稻荷宮御移徙 引江 神主

御初穂 銀イ両

一同廿七日、仏壇御移徙

金舟疋 西方寺和尚様

銀見、同 小僧

一店表移徙并無難開店之為御祈禱三番村東光院様請待、十月廿八日、本家建元方役所之庭所ニおゐて観音幟法、其跡大般若相勤魚鳥放生御僧拾一人、尤和尚斗

金舟サシ疋 東光院様和尚

同舟疋 同 御隠居

銀マ朱 外和尚八人

一開店無難倍繁栄之為御祈禱諸社江差上候処左之通

御湯料

一座摩宮 御祈禱料 白銀曾枚 白銀シエ、

一天滿天神社 御湯料 白銀イ枚

御靈宮 御神樂料 銀イサ入宛 (二匁五分)

一稻荷社

一内平野町神明社 御神樂料シセ、

一住吉社 千度抜料 シセ、

一引江稻荷社 御祈禱料 金七朱

御祈禱料

一道明寺天満宮御社 白銀イ枚 三ノ室様

金七朱 同齋戒衆江

銀イ両 稻荷御膳料

一明石人丸御社 御祈禱料 金舟疋

一生玉秋葉権現御社 七日之間大御膳料 金マ朱

御祈禱料 金イ朱

一伊勢御兩宮御神樂料 銀シセ、宛

但シ、勢州店江頼遣候所、彼店より代參被相建、右

料物共彼店出ニ可被致段申參候

一先年見世開之節、町内之衆店表江相招、酒飯差出有之候得

共、混雜ニも有之候旁[○]店与合之上、相招候代りとして

賦り候品左之通

御年寄

越後屋新十郎様

家持衆四軒

家守衆拾九軒

嶋田氏店とも

但シ、[○]店より此方江者

不參候ニ付相除ク

〆廿四軒

一鯉ぶし 壹箱宛

代箱共シカサ入 (十六匁五分)

内箱代マサ入 (三匁三分)

鯉ぶし

目方正味カ舟、有

此代ツ舟、サ入

外ニ五本代ツサ入 (四匁五分)

一右同町内借家人之衆中江者先年扇子式本宛賦り有之候得共、赤飯賦り度段[○]店より強而被申候ニ付、致同意候、尤家持衆之分者鯉ぶし差出候ニ付、赤飯なし之積ニ申合置候所、当方江何たる沙汰なしニ矢張相賦被申候故、此方も同様賦り申候、則左ニ

前家持家守衆

廿四軒

借家人衆

六拾軒

内、柴田勘助・坂部半右衛門

奥村忠右衛門

右三軒日勤ニ付除ク

丁内会所

家相家 加茂氏

京屋清兵衛

一赤飯入用

壹石九斗

代銭セシチ^〆サ舟文

代銀七舟サシカサ入 (二百五十六匁五分)

右赤飯丁内下役相雇配ル

前後二日半

此賃金イ步七朱

代七シセエ入 (二十一匁七分)

○

○ 吉硬屋藤兵衛

○ 井筒屋平八

右○印付三軒ハ表出入之職人ニ有之、当町ニ可為致住居管之所、職人屋敷未普請出来不申ニ付無其儀、依当町住居之心得ニ而送ル

八拾六軒

道正町浜

寄場江

酒印紙五枚

但シ、十二浜一浜之外也

一開店三付、町役之衆中江祝物差送候所左之通

御年寄

越後屋新十郎様

一鯉節沓箱 拾本入
酒印紙 五枚

金イ両 但し、開店御祝儀

外ニ、八郎右衛門様町内を御廻り之節、御看料として金セ舟
疋御持參

一金セ舟サシ疋 開店祝儀 丁代甚助

同舟サシ疋 肴料

外ニ、前丁代忠兵衛江開店祝儀金舟サシ疋

一金舟サシ疋宛 開店祝儀 下役兩人江

同舟疋宛 肴料

外ニ、金セ朱手拭式筋宛、町内髪結三人江

但シ、東廻老人ハ少し誤合有之、手拭十筋へ遣ス

錢エ、文垣外番 錢マ、文夜番吉右衛門

但シ、親方并丁ノ番 同エ舟文納屋下夕

店之番共三人分也、

一緒ニして遣ス

一八郎右衛門様御儀、十一月三日昼御船ニ而被遊御下向、同

五日当丁内御挨拶ニ被遊御廻り候、尤店掛り家守之方者相除き、其余御年寄共、家持衆五軒、家守衆拾沓軒、岩城・嶋田都合拾八軒江天地金一本物ニ而三本入扇子沓箱宛御持參、小野十右衛門殿御案内にて被遊御廻動候

一普請中見世先荒し候旁、堺筋北東角よりたひ屋迄三軒、堺筋通大西蔵南隣沓軒、右四軒江鯉ふし拾本宛為挨拶差送申候、扱又裏尻鞆町ニ而暫石工部やニ遣ひ候ニ付、隣家二軒江同様にして差送ル

一普請庭間近之家々江升印方ハ赤飯賦り被申候、依而此方も同様とハ存候得共、赤飯ニ而者いか、敷、少シ能過候へ共、配り家之方角升印方之引格ニ而左之通

一堺筋西側、但北ハ北角 一堺筋東側ハ鞆町之

松村氏斗、南ハ水屋際 角迄

さて

一裏ノ町ハ堺すじより 一今橋ニ而ハ八百屋町筋

八百屋町両側 東南より小路之角迄

小路ハ八百屋町すじ

東西四軒

合三拾八軒江

酒印紙式枚宛、代舟サシセ、

一開店目出度相寿候後、近国遠国御督意方江開店之披露状差

上度、前以相認さ七賦札五枚宛封し込拵置、右文言左之通

一筆啓上仕候、冷氣之節御座候得共、先以其御表益御機嫌能可被遊御座、乍憚目出度御儀奉存候、然者私店酉年類焼後、仮家ニ而商仕居候所、御蔭を以、今般普請出来難有奉存候、則開店仕候間、何卒不相替不限多少御用向被為仰付被下置候様、偏奉願上候、先者右開店御風聴奉申上度、御礼御願旁如斯御座候、恐惶謹言

十一月

三井

唯謹

何屋何右衛門様

尚々

開店御披露書入封仕置候間、乍恐御懇意様方江

御風聴被為成下候様奉願上候

一近在近国遠国江賦札相願候先々并札数等奥之口ニ記ス

一開店之手伝与して、退役衆又者店掛り之衆中、諸方より手

伝ニ可被參、逸々目覚無之仁も可有之故、赤羅脊板ニ而ち

いさき巾着を拵、提さセ可申積、右巾着提不被申仁者土蔵

江入レ不申定にして兼而右巾着拵置申候

一見世開為御祝儀御德意方江差上候所左之通

外出方御督意

式本物二而三本入

御大家方江

扇子沓箱宛

外ニたはこ入絹糸等相添差上候御方も有之候

外出方並之

三本物ニ而式本入

御督意方江

扇子沓箱宛

前売場

右同断

御德意方江

天満御同心衆

右同断

但シ、御德意ニ不抱東西共残らす差上ル

同御与力衆

三本物ニ而三本入

但シ、右同断

沓箱宛

合五千五軒

内、式本物三本入

百六拾五箱

三本物三本入

式百九拾箱

同式本入

四千五百五拾箱

外ニ

女たばこ入

四十五

絹いと

四包

一両御町奉行様并玉造・京橋御定番様江内窺いたし候上、献
上左之通

玉造・京橋御両所様江

御扇子沓箱

沓本物ニ而三本入

絹真田付足付台付

両御町奉行様江

右同断

外ニ、奥様江御たはこ入三ツ宛 桐箱入
御家老御用人江三本物ニ而三本入沓箱宛、其余御家中江三本も
の式本入沓箱宛
一開店為祝儀、浜々井上町部屋く、其外諸方江差出候所左
之通

浜々之部

一酒印紙五枚宛 十二浜 一酒印紙五枚宛 東堀三浜
但シ、道正町浜八前ニ扣有之 但シ、北久太郎町
候五枚与都合拾枚ニ成 南久太郎町 也

久宝寺町

難波橋北詰 千田木橋南詰

千田木橋北詰 浜屋ばし浜

一川筋組

肥後ばし浜

西信町浜

十七浜

常安ばし浜

豊げん座浜

但シ、老分之衆中江

湊ばし浜

江戸堀五丁目浜

式本入扇子一箱宛

土佐堀二丁目浜

薩摩座浜

十七軒江

土佐堀老丁目浜

白子町浜

壹浜江酒印紙三枚宛

船町浜

八丁目浜

竹屋町浜

ノ

海部堀

但シ、右三ヶ所ニ而六浜也

酒印紙七枚宛、其余之

四浜江八五枚宛

外ニ、老分之衆六軒江式本入

扇子沓箱宛

上町部屋く之部

一金舟疋宛

一酒印紙

大手口

甲州屋様

五枚宛

京橋口

せんべいや様

玉造口

政田屋権次郎様

山里

ノ三軒

雁木坂

ノ五ヶ所

一酒印紙

中小屋

一酒印紙

両御番所

三枚宛

青山口

五枚宛

部屋

一酒印紙

両御番頭

一酒印紙

両御目附

三枚宛

部屋

三枚宛

部屋

髪ゆひ床之部

升印店与申合左之通

一 概 永代浜

但シ、永代浜者人数多候ニ付、

上町ニ而八軒屋筋斗、但シ、今橋本詰より天満は

し迄

戰場ニ而北浜より久太郎町辺迄、右場所に掛り候
橋詰床、但シ、橋向床とも

髪ゆひ床江 手拭式筋宛

風呂屋江 手拭壹筋宛

右之通申合ニ候処、升印より約定違ひ、賦り被申
候処左ニ

髪ゆひ床江 扇子式本包壹ツ

手拭式筋ツ、

右之通約定より扇子相増賦り被申候、彼店是迄迎
も万事之儀兎角約定違被申候方ニ候故、此余開店
ニ付、示合仕掛置候儀も有之候得共、折角申合置
候而も当テに成不申故、此方限相談之上、取計ひ
候処、左之通

当人江

一 上町戰場共前ニ 髪結庭 手拭 壹筋
記し候庭所江 酒印紙 壹枚

若手衆へ

手拭 壹筋
百式軒江

風呂屋江

手拭 壹筋
酒切手 壹枚
式拾式軒江

一 上町戰場前ニ記し候
庭所之外三郷残らす
在床風呂屋とも

風呂屋江

右同断

三百卅四軒江

一 在領内端々風呂屋
并髪結床出見世

手拭ひ 壹筋
扇子 壹本
式拾五軒江

外二扇子五本

一 髪ゆひ入口江

手拭式筋 金七朱

一 髪ゆひ寄場

手拭ひ 壹筋宛

十二人江

右入用

手拭ひ 九百卅三筋

酒印紙 百式拾四枚

扇子 三十本

金 七朱

髪ゆひ床風呂屋之分斗也

諸方よせ

一堂嶋八方之 扇子

一天満市場

扇子壹箱宛

老分中老衆 壹箱宛

老分中老衆

式本入

四拾三軒江 式本入

三拾八軒江

一天満市側 扇子壹箱宛

一樋ノ上町

扇子一箱宛

老分中老衆 式本入

老分中老衆

式本入

九軒江

十三軒江

一相撲頭取 扇子一箱宛

一両御堂

扇子一箱宛

衆中 式本入

御山内不残

式本入

十二軒江

但、四十八軒

一日本橋辺 手拭壹筋

茂者引衆 ツ、

十六人江

一御買人之御衆中様方江御買物高二応し、慶物添もの切符左之通 但シ、十一月八日より 同晦日迄差出ス

一壹番より三番迄

花色通し小紋石持
横麻上下壹具
代ツシイ、宛

扇子壹箱宛
五本入

四番より左之通

一サ入よりセエ入迄
(五分) (二匁七分)

男扇子壹本

イ入サ厘
女絹糸壹包

一セチ入よりサウ入迄
(二匁八分) (五匁九分)

男扇子壹本

マ入
女絹糸壹包

一カ、よりチウ入迄
(六匁) (八匁九分)

男扇子壹本

サ入
女中絹糸壹包

一ウ、よりシツウ入迄
(九匁) (十四匁九分)

男扇子壹本

チ入
女中絹糸壹包

一シサ、よりセシウ、迄
(十五匁) (二十九匁)

男扇子壹本

イ、
女中絹糸壹包

一マシよりマシウ、迄
(三十匁) (三十九匁)

但シ、男女とも同様にして

扇子式本 絹糸壹包
サ入

一ツシ、よりカシウ、迄(四十匁 六十九匁)

右同 巾入
扇式本 絹糸沓包

一エシ、よりウシウ迄(七十匁 九十九匁)

右同 巾入
扇式本 絹糸沓包

一舟、よりセ舟、迄(百匁 二百匁)

右同 巾入
たと紙入 絹糸沓包
又ハ 手拭沓筋

一セ舟、よりマ舟、迄(二百匁 三百匁)

右同 巾入
扇三本 たばこ入沓(二匁三分)
セセマ入位

一マ舟、よりツ舟、迄(三百匁 四百匁)

右同 巾入
扇三本 たばこ入沓(四匁四分)
ツツサ入位

御使江 女中沓包 マ入
男扇子一本

右之通相定置候得とも、先様ニ応し、其時々模様ニよ
り、見膳差上可申積(總)

一慶物添もの用意いたし拵置候品、左ニ
一扇子三本物 但シ、京店江影遣白梅扇、御頼堂両所

一染手拭ひ

二而式万五千本誂ル、右ニ而太躰行
届キ可申積之所行渡リ不申、過急ニ
相成候ニ付、当丁内玉露堂方ニ而も
沓万三四千本誂ル、何れも画松本観
山、墨繕ニ而出船入船之模様、尤当
地川口之図取ニして鯖之尾書入ル、
観山画料沓枚サ厘替
模様前扇子同様、出船入船之形也、
京店江地誂ニスル江戸浅黄ニして、
模様白上ケ沓筋ニ付、代イセ入サよ
リマ入替、但シ、生正味也
数三千筋余

男持

一たはこ入

風津 糸錦

但、当地仕入織物類ニ而、当地ニお
いて仕立させ申候、直段不同有之、
沓勺ニ付平均セセマ入位ニ当ル(二匁三分)

女中持

一たはこ入 絹ち、み 染方色々

但シ、此品も当地ニ而仕立させ申
候、地代不同も有之、沓ツニ付
平均イカ入位ニ相当リ申候(二匁六分)

一絹糸 村井

イ入サ厘替 マ入替 サ入替

又紅猪口 マ入替

チ入替 イ、替 イサ入替(二匁五分)

サ入替三色　セ、替
チ入替

一十一月八日、就吉辰御開店、前日ハ朝之内小雨降直様晴上、別而八日晴天ニ付、朝八ツ半時頃、致開店候所、見世開否、誠ニ大群集見世一ぱいニ相成候故、表之瀆戸、其儘ニ差置、朝五ツ前頃表江張紙差出シ、明日御入来被成下候様、袴羽織ニ而御断申上候得共、仮家入口八百屋町入口又は裏町路うじ口杯より押掛ケ御入来、依之右入口も不残、切申候、一旦ハ家内之往来も出来兼候程之儀ニ而、前代未聞之御群集難有大慶千方不斜奉存候、四ツ時頃よりハ間近之町は往来一ぱいニ相成申候、右之仕儀ニ候故、[○]方彼店開店日より却而賑々敷有之、[○]瀆戸を差被申候、えひす屋迎も同様、其余村印・^④印辺迄当方之余り御客ニ而、是以瀆戸を差候程之御群集ニ有之候、八郎右衛門様御儀、十一月三日御下向、同廿三日被遊御帰京、御在坂中日々御出勤御下知被成下難有奉存候

一右開店ニ付、一番・弐番・三番迄御入来之御客様江上下

具扇子沓箱宛差出候儀、前以世間評判高ク、別而商人衆杯者身祝ひニ右上下貰ひ請度との存心ニ而開店以前より何れ之口を先キ江開キ候哉与内聞又は裏どいに被參候方粗有之、右之仕義ニ而、先方ニより五人・七人又ハ拾人位も手先キ

を拵江、店表間口一ぱい江まくばり手筈被致居候方有之趣、敷口承候ニ付、開き始之方角壁に耳あり与申事も有之候故、自然内輪之仁江被取候与は世間駄いか、ニ存、開キ初方角之相談ハ七日夕迄差延し、別宅之内沓人引請ル也、右之仕儀ニ付、得与思慮いたし見候処、矢張通例大戸之くゞりより明ケ始候方可然被存候ニ付、戸尻江当テ候貫ぬきを拵、金ざし九寸五步明ル沓番より三番迄之御方追々ニ引入ル、跡者惣間口諸方より御入来ニ成、就右手伝方十四五人手当いたし置候得共、明ケ始候時之勢ひ、誠ニ言葉ニも筆紙ニも尽シかたく、先以如右無類御群集之所、御客様方御怪我等も無之段難有大慶千方奉存候

一御客様江酒飯差出候献立定左之通

一汁　焼どふふ才切　一平　てんぷら

青葉　しい竹

養老麩

一猪口　赤貝　一硯ぶた　玉子厚やき

白髪大根　かまぼこ

みかん

一焼物小鯛　但シ、尾頭掛ケ金さし

六七寸位

〔此小鯛初日入用六七百枚有之候ハ、可然存、其積ニ
肴屋江注文いたし置候所、数千式百枚買調参り、其
内ニハ八九寸位之品も交り有之候ニ付、其向ははね
のけ置候処、中々行届キ不申ニ付、不残相用ひ、其
余ハ切身之焼物ニスル、扱右等之小鯛平日百枚・百
五十枚位にても容易ニ調かたく候所、此度当店見世
開之儀、下モ筋鯛場にても評判高き趣ニ而魚市場江
三井行とて仕送参候よし承り申候、其後とても店表
ニ小鯛入用之頃迄ハ無骨折手ニ入申候、廿一日より
切身焼物ニ相改候所、其頃よりとんと小鯛不自由ニ
相成候、右等此方より頼遣し候儀ニも無之所、如斯
之仕儀誠以不思議成上、都合ニ而返々不思議千万之
事共ニ而、万端工面克大慶千万奉存候

十一月八日開店

第一番御来客

天王寺天神坂ノ上百姓

大豆屋孫兵衛様

売役西六番 又四郎

掛り役 栄次郎

御買もの

マシ、チ入 花色ちちふ

壱反

シ、チ入 織物小立帯

〔四十二反六分〕
ツシイカ入

肴筋

〔此御方殊之外御飲ニにて日数七八日相立チ鯉節一箱并
去方江御頼祝歌一紙御持参、其後も度々御越、右上下
も仕立御誂、子孫迄家之宝与可致段被仰、大慶奉存候、
其 余 吉 左 右 之 御 咄 合 も 種 々 有 之 候 〕

第二番

今橋築地之宿屋

布市屋次郎八様

売役東七番 千太郎

掛り役 源七

御買もの

〔二十五反八分〕
セシサチ入

織物中帯

肴筋

〔朱書〕

〔此御方、実ハ召遣下男之由、右上下能キ望人有之、金

セシ両余ニ被相讓候由、内々外方より承り申候、先方

より伊丹酒壱挺、魴鯉ふし一連被差越候、尤右料物位

之品跡より答礼いたし置候〕

高麗橋堺筋西北角鏡屋

第三番

大和屋太兵衛様方江御滞留

因州青谷

錢屋市兵衛様

太物商売之御方ニ而、

過半ハ御在坂之由

売役中弐番 藤次郎

掛り役 友次郎

御買もの

（四十五分八分）
ツシサチ入

小紋ちぢふ

（十九分八分）
シウエ入

折返羽織一反

（四十五分八分）
ベツシサチ入

片入沓ツ

右売役之儀ハ八日朝鬮引致し置、当り鬮売役之庭所江御案内いたし、御買もの相済候上、御三人共奥江御案内いたし、上下一具奉書ニ包黒紅与白小水引式把く、りニして、白木足付台にのせ、五本入扇子箱ハ白木之片木ニのせ、袴羽織着用目出度祝物差上申候

2 見世開売上高

（※以下、開店初日から三十日までで売高・景物あり。翻刻は初日分のみとし、売高・景物数等は本稿末の第1表、第2表に整理した。）

〔上欄外朱書〕
「開店初日」

〔朱書〕

「寛政六寅年開店初日売高

チシイベサ舟、内、エシイベサ舟、正益
シベ、奥

八日売高 舟ツシイベカ舟、
晴天 内、舟セシカベカ舟、正益
シサベ、奥

御客江酒飯数 千五百三十人

景物数

男たはこ入百九十四

女同 七十六

手拭ひ 百六十六

扇三本入 七十七箱

同二本入 式百四十二箱

同袋入式本 四百四十

同老本包四百九十六

マ入	百八十二
サ入	式百廿五
チ入	百七十式
（二分五厘） イ入サ	百十
マ入	式百廿
サ入	四百七十
チ入	四百廿
イ、 （二分五厘） イサ入	四百卅
セ、	五十五
	廿五

(中略)

(朱書)

寛政六寅年

十日ノ売高

セ舟サシイメエ舟カシ、

内、セ舟〇チメセ舟カシ、正益

ツシマメサ舟、奥帳

此度

十日ノ売高

カ舟サシウメカ舟、

内、ツ舟カシメツ舟、正益

舟ウシウメセ舟、奥帳

(切継紙)

覚

一三幅対御掛物

一箱

蓬萊

左右竹鶴

栄川典信 筆

右六角様より

一同

住吉

一箱

三所凶

玉津嶋

明石

土佐将監光成筆

右出水様より

一御掛物 一幅

一箱

富士 画 山本宗川

讚 九峯和尚

右南様より

一三幅対

一箱

左 榎島

中 富士龍

伊川院御印画

右 鶴岡

右竹屋町様より

一二枚重盃

式組

住吉之景

右上之店より

一千載

二幅対

一箱

右之通御座候、以上

(中略)

〔十四日目、朱書〕
「今日より焼もの切身之鯛ニ改ル、併先様にヨリ小鯛も用ル」

（中略）

〔十九日目、貼紙〕
〔朱書〕

「寛政六年寅年九日、売高

ノ舟〇エ、内、チシチノサ舟、正益

シチノサ舟、奥」

此度九日、売高

ノセ舟サシチ、内、舟カシツノチ舟、正益

ウシマノセ舟、奥」

（中略）

〔廿日目、朱書〕
「寛政度売高十九日目迄書留有之、其余扣なし」

（中略）

〔二十三目、酒敷の脇に朱書〕
「今日限ニ而明日より平日之通改ル」

〔二十三目、景物の上に朱書〕
「慶物見世ニ而差上候分は今日限り」

（後略）

3 慶物惣寄

慶物惣寄 但、十一月八日より卅日迄日数廿二日、
見世ニ而差上候分也

扇三本入 六百拾壹箱

糸セ、 百八十
〔二匁五分〕

同式本入 三千貳百廿九箱

同イサ入 四百四十

同袋入二本 四千五十三包

同イ、 千四百

同袋入壹本 貳千七百六十四包

同チ入 貳千四百五十

合老万九千百六十壹本

同サ入 三千九百五十

同マ入 貳千五十

〔二分五厘〕
同イ入サ 九百

ノ老万貳千三百七十包

紅粉猪口

男たはこ入千貳百四ツ

マ入 千三百三十

女同 七百六拾壹

サ入 千九百拾老

手拭ひ 千八百八十二

チ入 千九十五

ノ四千三百三十六

右之外二極月朔日より同晦日迄差出候分左二

男たはこ入廿七 女たはこ入四十

手拭ひ 五百廿三 扇七千五百九拾本

右之外二

扇千五百本余残ル

是ハ春ニ至リ遠路御德意方より開店後始而御注文被

仰付候御方江差上申度、其手当ニいたし置候

4 見世開初帳付

一見世開初帳付与して御德意方より臨時之御用向被仰付候方

左之通

米屋平右衛門様 イヅセ舟、之品現銀ニ御調被下

添もの横麻沓反、桐箱入台付ニして差上ル

平野屋市郎兵衛様 イヅセ舟、之品現銀ニ御調被下候

添もの横麻沓反、桐箱入台付ニして差上ル

炭屋安兵衛様 マヅ、程之品、但し帳付

同横麻沓反、右同断、扇子沓箱

天王寺屋忠次郎様 マヅ舟、程之品、現銀ニ御調被下候

同白紬沓反、扇子沓箱

桑名屋常八様 ツヅサ舟、程之品現銀

御客様四人様

御客四人様へ晒金巾沓反宛、代シサツ入替(千五百四分)

桑名屋敷様へ手拭・たはこ入・扇

土井様御用 サヅ、現銀頂戴 御買物方

御奉行柴田権左衛門様 山本治平様

御勘定役岡村忠右衛門様 島津左源次様

四人様同様ニして、たはこ入式ツ、イサ入替絹糸沓

包宛差上ル

京都室町八文字屋与兵衛様 イヅチ舟、程之品、現銀

添もの、紅金巾沓反、手拭ひ式筋、扇子沓箱

所々より銀高之品、御注文有之、景物切符之品ニ而行届キ

不申御方々江

唐皿(更)紗風呂敷式拾六枚

5 開店後の評価、神棚新調のことなど

一賦札之衆中厚配にて賦り方行届、印印方与違、世上一統至

而御評判よく、其余万事都合克旁存外目寛敷賑合ニ有之、

開店後暫ハ世間ニ而店表繁栄之噂而已しよく入来之衆中斷

合ニ有之候、御入来御客之内群衆ニ而門前より御引取、三

四日も続ケ御入来、漸三日目四日目位ニ御買物被遊候御方

も有之候、扱普請も取掛りより成就迄普請方職人喧嘩口論

怪我等も無之、且開店諸取計ニ付、何一ツ無故障、誠ニ速

ニ仕謂、是全人力ニ可及所ニあらず、神仏之御加護ニ而、

伏而難有奉存候

一右繁栄ニ付而ハ、諸方より御祝歌御惠贈被下、則奥之口江
写置也

一御神棚京店江頼遣、荒仕立、京都ニ而出来、彼地大工下坂
ニ而、仕立上ケ、出来申候、尤寸法唐尺ニ而相鍛置申候仕
来揚り至極恭々數被拜し二階御見物御衆中之内、さいせん
又ハ十二銅御備、其外ニ

御初穂銀壹封
炭安様御別家
炭屋佐兵衛様

六合一ト重位之御鏡餅
瓦屋橋松屋町

紅白五組
豊田屋
藤兵衛様

右之通御備被下候ニ付、御備下ケ之鏡餅一重宛御両家とも
差上申候、日々之さいせん都合ニ而錢壹貫三百文余有之候
一店安恭商売繁栄業障滅消之ため、諸国諸神仏之御贖手寄之
先々江頼遣候所、都合千五百五十ヶ所余相集、尤五組宛頼
遣シ、内三組者京都江差為登、此内江戸表江も配分、残忒
組之内、壹組者棟木江相納ル、神棚南手天井之上也、残壹
組大西蔵北手縁側之西之方江神仏棚与号し相祭、平日御灯
明神花御供物献備、家内之者朝夕信心怠りなき事

諸方より祝歌の部

鉄炮にやかれたれとも建直しふひこ祭に当る店出し
大抔

日本にまたとなき花の呉服店七福神もおそれ入舟
唐玄

三光の玉の三井の見世開いりくる人は福の神かな
はか清

福徳は家に三井の店開ひやく千貫目商ひの神
力丸

売かふる四に有様や蛤のなかはしらより人の万歳
負栗

三津の浦百船千舟漕よせてこゝに三井の栄え
八十八翁

知られつ
雀の屋

店開き客もみついの繁昌ハから高麗のはしやまもしる
徳井
広丸

水によせて祝ひ待る

千代呼ふ給ふわたましの君かやも三井の水ハ酌つくさまし
政隆

鳥に鳳凰獸に麒麟人に君子撰む呉服の品ハ三井止
同

夜もすからたへす賑ふ買人のかねの響に安気な店出し
是保堂

浪花津にこふく商売賑ハして三井は名高き繁栄の見世
誉丸

代呂物に手を尽もせず負もせず三井と名乗る商人の関

画面の三国一の洲入ふね出舟にまさる買人の目出たさに

錯々亭

6 御祝歌

末広を開けは三ツの大湊悦十分の店の賑ハハ

睦丸
祝し侍る

機物のいと、榮ふる見世開きよみによまれぬ人のこしける

跋問戸

面白し神もいさみの神楽月いわ戸ならねとおし開く店

鈴窓

おほかふの名とか草なる店開き富貴の花の榮ふ此宿

鈴窓

影むろをほさて

人さわにかけ立やらんすさの葉のうせすかわらぬ

とはのミつゝゐハ

みよしの、花とミつ井の店開きかひての山やひとめ千金

光窓

神楽月の比御店ひらきありしを祝して

今開く富貴の名あり冬牡丹

には枝

こゝろにハ終二雪の降つもりし比御店開きありしを祝して

家の名の越後にふれる雪よりもつもり知られぬ商内のたけ

庭枝

勢州の外三都に御店の榮へさかふるにわきて、こたひ

御店ひらきあるに御祝儀なりとて出し給ふ、上下貴賤

老若男女の分ちなく日本はいふもさらなり唐天竺へも

かくなむ通し、猶よろつ代までもかわらぬ御代にすへ
長く榮へ給ふを祝して

繁昌のしるしハ井筒に三国やから高麗橋になり渡る店

松寿亭

天保に神楽月の給ふ吉辰を撰て店ひらきの賀をもふて
給ふ、むかしにまさりて賑ハしきハ実に三国一のきぬ

たなとおろかなるや、つかれ孫兵衛主にかはりてい
さ、かそのいさをしを祝し侍る

三代目一本亭芙蓉花

千世やちよ汲とも尽ぬミつの井をなかがれとこそ祝ふ水甕

北岩若

目出たさや処もかへす帰り蒼

岩若

初雪や扇子の富士を受けて見る

南岩若

三井大奥の御座敷を拝見して

大和

結構な口にははれす冬日和

隆士

店ひらきを賀して

いさきよく四方に開くや匂う梅

談亭

開くから香の夥し四方の梅

同

店開より今にたへす群来るをミてよめる

名に高き底堀抜の三ツの井はくめともく尽ぬまろうと

広通

本国近江佐々木末鯨江孫、河州平岡郷元和年間旧跡

松陰館松翁四端八十一歳画

松の画 指筆

さんは叟翁もありて千歳は松にそろひて

三井わふなり

経営隆慶見良工幾丈拗梁恰

似虹呉錦越羅支與繡縹紗綾

子白還紅価庶□々処為市恵

厚連々厘尽忠賈肆無双天下

最偏知六十六州中

奉賀 三井氏綵帛新肆 藍州小山魯

松契遊年

ひさしくもよはひをふへき山まつはくもにも

えたやさしかわさまし

重胤

奇日祝

しのゝめのこゝちハしけり朝日かけのほるさかえも
ほのきさしつゝ、

同

沢鶴といふ酒を三井氏のいたましのよろこひにおくる
にそえて

あまつからはるかにのほる沢のつる三もゐにてこそ 同

千代ハへぬへき

おなし御家に栄川の名画たる蓬萊山に竹に鶴の三幅対
なる御かけものを拝し奉りて

蓬萊山竹に鶴とそみつ井なる御家は千代も栄川の画 庭枝

四方に御店多ふき中にも浪花なる御店のこたひあらた
に御店開かせ給ふに世上に名たゝる雪舟の名画たる三
番叟をやつかれも幸ひの御因によりて難有拝見ならて
感心の余りをよめる

にほん国へ名高き三井の三番叟の筆はせつしう大坂の店

松寿亭

おなしかけとのを見て

店出しを悦ひありや三番叟てかい手を外へはやら 庭えた
しと思ふ

おなし扇の絵によりて

来年もまた豊作とみほつくりはにつくさきへ満る入船

には枝

御店開きの御祝儀に浪花三つの浦のみをつくしに帆を
かける入船多ふく画出し候御扇子を余にも恵ミ給ひし
によめる

うらの名の三井にかける帆の画面御家の風も福む末広 庭枝

こたひ御普請かの長生殿もかくやらむと駿河町にも御
店あるにて富士の山なすも路人結構さのくましまても
目をとめるは私もおなくして

御主人の寿も長生殿とミつ井こそ不老ふしんに目を 庭枝
とめる家

同しく御普請に二階三階へも御心をこめ給ふを見て
結構な普請は二階三界にまたもたくひはなにはの越後屋

には枝

御店ひらきを祝し侍りて

千里から送る呉服のかひ／＼八世々に尽せぬ店の繁昌

米丸

福祿寿三井そなはるめてたさはまして呉服の店開かな 厚丸

御開店を祝して

春まちてひらき初るや冬至梅

寿星堂拝

新室を祝して

日本に一と二のなき三井こそ四ろもの多き五福見世かな

寿星拝

7 日記

十一月日記

二日、開店見繕諸相談与して京本店元方掛り名代役中塚徳次

郎殿今昼船三而罷下り被申候、同十五日帰京

三日、八郎右衛門様御儀、今昼御船二而被為遊御下向、同廿

三日御帰京被為在候、御在坂中日々御出勤御下知被成下

難有奉存候

四日、京店手伝之節、組頭より初元迄七人、子供七人、今朝

下坂有之候

五日、京都家督退役衆中手伝与して罷下被申候

今夕八郎右衛門様御土産、御寄会被遊御勤、開店万端被

仰渡候

勢州退役之節、四人手伝与して今朝着坂被致候

宗六様今昼御船ニ而被遊御下向候

七日、上之店向崎喜左衛門殿、元方中村万兵衛殿、今昼船ニ
而罷下被申候

十日、京店江手伝之追増人数頼遣し度、十二日昼船ニ而又々六
人下坂、其余家督退役之衆追々下坂

十四日、京本店加判名代役松山喜十郎殿開店之見改与して今
昼船ニ而下坂被致、廿四日帰京被致候

京都家中衆手伝之内、無抛用向有之両三人帰京跡も二三
日宛日数経追々帰京

8 開店につき宅々より頂戴の品々

一今般御開店ニ付、御宅々より頂戴之品左之通

一 蛭子神 式幅対 北様より
一 大黒天 高福君御自画

一 富士大横物 壹幅 同
一 救心齋安信筆

一 入船出船之図 式幅対 宗六様より
一 宗六君御自画

一 雪舟写富士之横物 壹幅 南様より
一 山本宗川画

一 讚 九峯和尚

中蓬萊

一 左右 松ニ鶴 六角様より
一 竹ニ鶴 図

一 和歌三神之図 三幅対 出水様より
一 土佐光成筆

一 左江之島 三幅対 竹屋町様より
一 中富士越龍図

一 右鶴ヶ岡 任川法印筆

一 仲国之図 式幅対 新町様より
一 柴川院筆

一 式枚重盃 式組 上之店より
一 住ノ江景

一 千載之図 式幅対
一 雪舟筆

右千載本店ヨリ借受、元方床之間江懸置跡差戻ス、珍鋪
品ニ而世間評判高ク、追々御覽ニ御出之方多有之候

9 開店につき諸方より手伝い人数

一就開店諸方より手伝人数左二

京本店

並川清助 永緒利七
井上仁助 矢嶋友五郎

角野藤助 森野新三郎
向崎吉次郎 子供

定三郎
幸次郎

子供

同上ノ店

諸川彦七 幸三郎
橋本定七 虎之助

子供

京勘定場 堀藤七

藤吉

京都店々家中左二

山田茂助

高橋徳兵衛 野村喜六

川合茂兵衛

泉常右衛門 中川茂右衛門

村上喜助

伊藤嘉助 若林幸右衛門

大矢伝四郎

岡本伝右衛門 田宮弥七

横江庄七

小嶋七右衛門 水谷勝藏

熊谷仁右衛門

長嶋平五郎 小林三右衛門

川嶋弥右衛門

上嶋平五郎 辻平兵衛

辻勘兵衛

越市手代 新次郎

南都橋井利右衛門 同手代彦七

京 越後屋十次郎

諸国退役中

勢州藤方忠兵衛 勢州中森儀兵衛

勢州平井弥兵衛 勢州山口彦次郎

勢州青木藤五郎 紀州井原新七

江州長野十藏 江州溝口惣次郎

伊賀勝部甚三郎 伊賀荒木勘三郎

伊賀落合金兵衛 伊賀坂清七

伊賀竹沢清六 初瀬森田勘六

一御開店後住吉社江手伝家中衆ニ統御礼参詣可被致、催之所
段々延引ニ相成、翌丑年十一月八日ニ参詣可被致趣及承り
候ニ付、相談之上指出候所左二

御酒料

一金五百足 店表より

右指出候所、弥十一月八日ニ参詣被致、凡人数廿五六人有
之由、右之余入用八銘々出しニ被致候事ニ御座候

10 諸入用

諸入用

大塩の乱後における三井越後屋大坂本店の再建記録（下向井）

- | | |
|--|--------------------------|
| 一 舟セシエサ入
<small>(百二十七匁五分)</small> | 横麻上下三具
白木台とも |
| 一 カヅセ舟サシ、 | 京都扇子
式万五千本
壺本セ入サ厘替 |
| 一 ツヅマ舟マシマ、 | 大坂扇子
壺万三千本
三本もの |
| 一 ツ舟○カサ入
<small>(四百六匁五分)</small> | 同式本もの
八百拾三本 |
| 一 カシ、 | 五本入扇箱五ツ |
| 一 エ舟エシマ、 | 三本入同
千百八拾五箱
カ入サ厘替 |
| 一 イヅチ舟チシツ、 | 式本入同
四千九百拾箱
マ入チ厘替 |
| 一 千舟ウシイチ入
<small>(八百九十一匁八分)</small> | 畳紙
六千八百包 |
-
- | | |
|--|---|
| 一 マシチチ入
<small>(三十八匁八分)</small> | イ入マリ替余
<small>(匣)</small> |
| 一 イヅウ舟セシウウ入
<small>(二貫九百二十九匁九分)</small> | 献上扇子
切箱台とも
四箱 |
| 一 カシチツ入
<small>(六十八匁四分)</small> | 扇子画料
壺枚サ厘替 |
| 一 舟カシササ入 | 扇子 拾八箱
壺本物三而三本入 |
| 一 四貫八拾七匁七分 | 京都下り扇かり箱
并袋代 |
| 一 式貫九百五拾四匁四分 | 手拭ひ
三千三百四十筋
<small>(二匁四分)</small>
セツ入余 |
| 一 壺貫五百卅三匁六分 | たはこ入
千式百三十壺 |
| 一 三百八拾四匁五分 | イチ入余
同八百五十式
女中形 |
| | 右手拭たはこ入
包番判すり代とも |

一七貫四百拾匁五分 絹糸壹万式千三百七十包

一貳貫貳百三拾八匁

紅粉猪口
四千三百卅六

一百三拾貳匁

横麻 三反

但シ、是より後六口ハ開店帳面付始トして別段銀高之御注文被
仰付候御方々江差上候品々ニ御座候

一七匁

右箱代

一四拾壹匁

白紬 壹反

一六拾匁八分

晒金巾 四反

一貳拾七匁

紅金巾 壹反

一貳百卅九匁貳分

唐さらさ
服紗廿六枚

ノ三拾六貫九拾匁壹分

賦札入用

一拾九貫八百五拾八匁五分

問屋買束シマザ入替
柳川杉原

千四百七拾壹束
壹束四百八拾枚もの
紙数七拾万六千八拾枚

一三百九拾七匁壹分

右式歩口錢

一百三拾貳匁四分

右紙立ちん

一壹貫六百拾八匁壹分

右板摺ちん
墨代とも

一四百三拾匁

右たゝみ料

一百六拾匁

判木拾六枚

一九拾三匁四分

右彫直しちん
同書判木とも

一三拾壹匁貳分

右判下文字
認之挨拶

一五百三拾壹匁五分

広棧留袴拾貳具
賦札之仁着用

一貳百四拾壹匁

風呂敷五十
柳箇とも

一三百六拾八匁七分

諸国御徳意方江
開店披露状認ちん、紙代共

一六貫三百七拾貳匁六分

諸国近在賦札、市中賦札之仁江
挨拶并日雇小遣・飛脚ちん・船
ちん其外諸掛りもの

〆三拾貫貳百三拾四匁五分

町内祝儀并内祝賦りもの

一三百九拾六匁

松魚廿四箱
家持并家守衆不残、廿四軒

一貳百八拾三匁七分

赤飯壺石九斗
町内家持・借屋共不残

一拾匁

酒印紙五枚
町内浜仲仕寄場江

一貳百八拾匁貳分

年寄・丁代・下役祝儀
髪ゆひ祝儀

一九拾八匁四分

垣外番・夜番納家下祝儀
役方之日数八日詰切祝儀、雑用

一五百三拾七匁五分

台所男髪結祝儀
外ニ骨折之心付共

一三百四拾匁

一貳百九拾六匁

表出入祝儀
本出入七朱
其余銀イ兩

〆貳貫貳百六拾五匁

諸方賦祝儀

一百五拾三匁八分

一九拾八匁五分

一八拾匁七分

一四拾六匁三分

一百三匁九分

一貳百四拾七匁六分

一七匁七分

〆七百三拾八匁五分

十二浜仲仕寄場江酒切手
川筋十七浜江、同五拾壺枚
海部堀六浜江、同四拾枚
上町部屋頭三軒江金舟疋宛
上町部屋ノ九ヶ所江酒切手、
五拾三枚

一四百貳拾四匁九分

一三百三拾五匁九分

一六貫貳百六拾壺匁

一五貫四百五拾七匁三分

但シ、答礼之惣銀高シイ〆〇サシウ入之所江、到
来之品相用ひ候引残高也、残り之品店表江買ニ相
立申候

一壺貫五百九拾壺匁八分

一貳百八拾五匁三分

溜メ銀口々之高

一壺貫五百九拾壺匁八分

一貳百八拾五匁三分

ため紙、水引代

〆拾四貫三百五拾六匁貳分

諸方賦祝儀

諸方祝物到来之方々江答礼高

市中賦札之仁へ挨拶、供付男ち
ん并開店手伝之衆江挨拶

開店之節諸社江御祈禱料
開店後諸社御礼御祈禱料

髪結床数軒江同百貳拾枚
髪ゆひ入口江金七朱

〆七百三拾八匁五分

〆七百三拾八匁五分

〆七百三拾八匁五分

合八拾三貫六百八拾四匁三分口々

右者御客用台所雜用之外、諸式之入用也、此分別目錄ニ
認、京都江差登ス、普請入用ニ加ル

又、台所諸雜用前年よりエシイサ舟、余多ク有之、尤
見世手伝之人数も余程有之候故、凡見積りして加へ置、
其余之所サシウベエ舟、余見世客入用江相加江、雜用方
目錄相認差登ス

第1表 売上の推移

No.	日付	上欄外朱書開店 日からの日数	天 気	天保11年見 世開きの売上 (匁)	正 益 (匁)	奥 (匁)	寛政六年見世 開きの売上 (匁)	正 益 (匁)	奥 (匁)	御客へ酒飯数 (人)
1	11月8日	開店初日	天	141,600	126,600	15,000	81,500	71,500	10,000	1,530
2	11月9日	2日目	晴 天	93,000	67,800	25,200	41,360	34,360	7,000	1,100
3	11月10日	3日目	終日曇天折々小雨 朝之内曇天、四ツ時より 雨、九ツ時晴上ル	89,000	54,000	35,000	36,000	29,000	7,000	950
4	11月11日	4日目		64,100	44,100	20,000	20,000	13,500	6,500	607
5	11月12日	5日目	晴 天	64,000	34,000	30,000	15,000	9,500	5,500	588
6	11月13日	6日目	天 気	50,000	31,000	19,000	11,700	9,700	2,000	545
7	11月14日	7日目	天 気	41,000	26,000	15,000	15,500	15,000	500	588
8	11月15日	8日目	天 気	41,400	28,400	13,000	10,500	9,000	1,500	488
9	11月16日	9日目	天 気	37,500	22,500	15,000	8,200	6,700	1,500	538
10	11月17日	10日目	天 気	38,000	26,000	12,000	12,000	10,000	2,000	520
11	11月18日	11日目		35,100	22,100	13,000	11,500	1,000	1,500	360
12	11月19日	12日目		27,800	18,900	9,000	13,000	10,500	2,500	336
13	11月20日	13日目		31,000	19,500	11,500	10,000	7,000	3,000	325
14	11月21日	14日目		30,200	18,200	12,000	10,500	6,000	4,500	340
15	11月22日	15日目		23,800	13,300	10,500	15,500	10,500	5,000	244
16	11月23日	16日目		24,400	14,400	10,000	11,500	11,000	500	222
17	11月24日	17日目		28,600	20,600	8,000	7,500	7,000	500	296
18	11月25日	18日目		30,800	19,600	11,200	7,500	7,000	500	302
19	11月26日	19日目		26,200	18,200	8,000	20,000	19,500	500	250
20	11月27日	20日目		21,300	13,300	8,000				234
21	11月28日	21日目		23,500	15,500	8,000				231
22	11月29日	22日目		24,000	16,500	7,500				286
23	11月30日	23日目		27,300	16,200	11,100				301

第2表 景品の推移

No.	日付	上欄外朱書 開店日から の日数	男たば ご入	女たば ご入	手拭	扇 三本人 (箱)	扇 一本人 (箱)	扇 袋入 二本	扇 袋入 一本	紅 三分	紅 五分	紅 八分	糸 一分五	糸 三分	糸 五分	糸 八分	糸 一分	糸 一分五	糸 二分
1	11月8日	開店初日	194	76	166	77	242	440	496	182	225	178	110	220	470	420	430	55	25
2	11月9日	2日目	138	43	182	63	388	413	313	223	271	165		270	440	380	210	40	10
3	11月10日	3日目	103	62	120	39	260	251	187	146	122	81	80	230	440	220	145	30	25
4	11月11日	4日目	82	67	156	48	188	197	168	134	146	77	30	170	230	170	75	50	15
5	11月12日	5日目	84	50	93	36	205	151	142	108	155	74	20	20	210	110	30	20	5
6	11月13日	6日目	71	55	96	47	260	184	128	47	137	35	10	90	205	120	80	30	
7	11月14日	7日目	87	32	112	37	176	159	98	41	159	81	40	70	150	100	70	5	5
8	11月15日	8日目	73	28	115	30	184	160	128	17	113	106	30	75	170	80	60	5	10
9	11月16日	9日目	56	25	150	39	157	226	161	138	97	28	20	80	145	80	30	15	
10	11月17日	10日目	43	45	77	36	98	285	130	37	115	52	60	85	200	60	10	25	5
11	11月18日	11日目	18	29	67	25	80	205	105	48	60	45	10	60	70	40	10	10	5
12	11月19日	12日目	28	25	58	8	72	155	21	30	45	26	10	80	105	50	10	15	5
13	11月20日	13日目	29	26	65	12	163	150	56	44	60	91	30	60	115	70	10	10	5
14	11月21日	14日目	27	21	49	19	58	151	94	75	6	15	30	40	135	40	30	10	5
15	11月22日	15日目	13	29	47	10	65	114	60	15	54	15	20	40	90	30	10	10	
16	11月23日	16日目	29	20	37	12	58	40	70	2	24	15	50	50	80	60	10	15	5
17	11月24日	17日目	18	7	50	20	101	165	60	10	11	7	10	50	100	50	10	15	5
18	11月25日	18日目	29	23	53	2	91	125	60	10	9	8	30	50	100	60	20	10	
19	11月26日	19日目	10	16	34	20	84	70	60	5	16	4	30	50	110	60	30		
20	11月27日	20日目	17	15	41	8	74	100	60	14	5	5	20	40	70	30	20	5	
21	11月28日	21日目	14	27	15	11	68	95	55	13	10	17	40	50	70	50	30	15	5
22	11月29日	22日目	13	12	37	6	106	125	70	15	19	2	40	50	100	50		5	
23	11月30日	23日目	28	29	70	104	105	92	42	6	1	12	36	45	67	60	22	15	3